

前向きな意見も出ました。

まずは、隣近所で助け合いながら、できることからやっ  
ていくことを、開催した座談  
会の中で、集落の皆さんに訴  
え続けてきました。

「ムラの自治」として、い  
かにして農村環境を守ってい  
くかについて、集落内できつ  
かりと話し合うことが重要で  
す。

### 集落単位での取組の推進

土師地区での座談会をきつ  
かけに、集落での話し合いが  
進んだことにより、各集落で  
「人・農地プラン」の作成に  
つながり、平成31年3月に6  
集落のプランを町が認定しま  
した。

人・農地プランとは、まず  
は集落の皆さんでしっかりと  
話し合いながら、集落の農業  
の現状を把握し、近い将来耕  
作ができなくなる農地を明ら  
かにするとともに、集落内  
で中心的な役割を担っていく  
農家を明確化した上で、5年  
間の計画を立てるものです。  
このプランの作成により、集

落の将来像を皆さんで共有し、  
必要な行動を起こす第一歩に  
つながります。また、農業用  
の機械や施設を導入する際な  
どに補助金を受けやすくなる  
といったメリットもあります。

### 町の新たな支援制度

集落座談会を通じて、「次  
につなげていくための現状維  
持」について、行政としても  
しっかりと目を向けていきま  
いという認識を持つに至りま  
した。

今年度の町予算において、  
「次世代につなげる農業経営  
基盤整備事業」を新たに制度  
化しました。これは、集落で  
作成した人・農地プランにお  
いて、中心的な役割を担う農  
家のうち、後継者が決まっ  
ている人が機械の導入や更新な  
どを行う場合に、その経費の  
3分の2について補助金（上  
限額は100万円）を交付するも  
のであり、本町独自の制度で  
す。

この事業は、後継者にバト  
ンタッチするまでの間、頑張  
って農業を続けていただきた

いという趣旨で制度化したも  
のです。ぜひ、集落で話し合  
いを進め、人・農地プランを  
作成してみませんか。

### 現れ始めた効果

土師地区6集落で連携した  
取り組みを進める中で、集落  
内はもとより、集落の垣根を  
越えたコミュニケーションや  
協力体制が生まれつつありま  
す。

具体的には、複数の集落が  
共同で草刈りをしたり、今年



5月19日 横田集落の共同田植え

度から耕作できなくなるはず  
だった水田が遊休地にならな  
いよう、集落の住民が共同で  
稲作作業を手伝うなど、目  
に見える成果が少しずつ現れ始  
めています。

### おわりに

昨年度までは土師地区での  
座談会を進めてきましたが、  
今年度の4月から6月にか  
けて、山形地区（浅見）、那岐  
地区（大屋、東宇塚）で開催  
しました。「ぜひうちの集落  
で座談会を開催してほしい」  
という要望があれば、山村再  
生課または農業委員会事務局  
に相談してください。

今から約150年前の明治元年  
には、総人口3千万人の日本  
人の9割は「村」に居住して  
いました。集落に住む住民の  
自治の力があつたからこそ、  
長きにわたって農村環境が維  
持されてきたはずですよ。

「うちのムラの田んぼや畑  
をこれからどうするじゃい  
な？」について、集落できつ  
かりと話し合うところから始  
めていきましょう。